

2008 年度 修士論文

スポーツ・ボランティアの継続参加意思を規定する要因に関する研究

Research on factor to provide for sports volunteer's
continuance participation intention

早稲田大学 大学院スポーツ科学研究科

スポーツ科学専攻 スポーツビジネス研究領域

5007A010-1

内田 佑介

Yusuke, Uchida

研究指導教員：間野 義之 准教授

スポーツ・ボランティアの継続参加意思を規定する要因に関する研究

スポーツビジネス研究領域
5007A010-1 内田 佑介

研究指導教員：間野 義之 准教授

1. 研究の背景

わが国のスポーツイベントにおいて、ボランティアが公募され、初めて組織的に活躍したのは1985年の「ユニバーシアード神戸大会」であった。特定のスポーツに深く関わった人々に加えて、広く一般の人々にボランティアによるスポーツイベントの支援が次第に一般化した背景には、スポーツイベントによる地域活性化を目指す事例の増加や、1998年の長野冬季五輪においてのボランティアへの注目が挙げられる。イベントに参加するボランティアに対する研究も山口を始めとして行われており、今後もスポーツイベントを支えるボランティアのニーズが高まるにつれ、参加促進や活動継続に関する予見の蓄積が必要になるだろう。

2. 研究目的

本研究では、スポーツイベントに参加するボランティアを対象に参加継続意思を既定する要因を明らかにすることを目的とする。

3. 研究方法

調査対象は、2008年8月8日～8月10日に行われた「湘南オープンウォータースイミング2008（以下、SOWS2008）」に参加したボランティアである。SOWSは毎年夏に開催し、今回で5回目であり、いずれの大会でもボランティアが参加している。活動終了後にスタッフより質問紙を配布し、回収は8月31日の期限を設け、返信用封筒による返送で行った。調査概要と回収結果は表1のとおりである。

表1 調査概要と回収結果

対象者	477名 (SOWS2008の全ボランティア登録者)
調査方法	郵送法による質問紙調査
調査期間	2008年8月8日(金)～8月31日(日)
回収数	219 (回収率:45.9%)
有効回収数	208 (有効回収率:43.6%)

調査内容は、個人的属性、参加動機、活動への評価、次回大会への継続参加意思などによって構成されている。参加動機は本大会に参加したボランティアリーダーに対して予備調査を行ったのちに決定した。

4. 結果

参加動機28項目に因子分析を行い、参加動機を構成する5つの因子を抽出し、「気晴らし」「大会支援」「自己実現」「依頼」「奉仕」と命名した。これにより、スポーツイベントに参加するボランティアが多様な因子で構成されていることが明らかになった。また、活動への評価12項目に因子分析を行い、2つの項目を抽出し、「組織サポート」「業務内容」と命名した。

「継続参加意思」を被説明変数とし、「属性」、「過去の行動特性」、「参加動機」、「活動への評価」、「満足」の影響を詳細に把握する目的で階層的重回帰分析（強制投入法）を行った。

ステップ2では、継続参加意思の説明力は小さいが過去大会の参加が継続参加意思に有意に正の影響を与えることが示された。

ステップ4では「活動の評価」が2因子とも継続参加意思に有意に正の影響を与えていることが示された。

ステップ5では満足のみが有意に従属変数を説明する変数となった。

また、継続参加意思に影響を与えていた満足を従属変数にして重回帰分析を行ったところ評価：組織サポート、評価：業務内容が有意に正の影響を与えていることが明らかになった。

5. 考察

階層的重回帰分析を行い、過去大会の参加が継続参加意思に有意に正の影響を与えることが示された。初参加者と活動継続者の比較では活動継続している方が、継続意欲が高いことを明らかにしている先行研究も見受けられた。過去の大会で満足を得た層が続けて大会に参加し続けていることが考えられる。

ステップ4では「活動への評価」が2因子とも継続参加意思に有意に正の影響を与えていることが示された。このことから本大会に参加するボランティアからは、ボランティア・マネジメントの重要性が示唆されるのではないだろうか。

満足も含め、全ての説明変数を含めた分析では、満足のみが有意に従属変数を説明する変数となった。満足は変数の中で継続参加意思との相関も一番高かった。このことから、様々な参加動機が認められるなかで、個人それぞれの満足を満たす事が継続参加意思に影響を与える事が示唆される。

満足は、継続参加意思に有意に正の影響を与えているという結果を受けて、満足を従属変数にして重回帰分析（強制投入法）を行ったところ評価：組織サポート、評価：業務内容が有意に正の影響を与えていた。「活動に対する評価」から「満足」に影響を与え、「継続参加意思」に間接的に影響を与える可能性が示唆された。

本研究では、参加動機項目はボランティアの継続参加意思、満足それぞれに直接影響を与えないという分析結果が出た。桜井の「ボランティア活動の継続性を検証する際に参加動機要因以外の要因を検証に扱わない場合に慎重な理解が必要」との考察を支持する結果となったといえる。その一方で、重回帰分析の決定係数は高いとは言えない値である。継続参加意思を説明するための要因を今後の研究において蓄積する必要があると考えられる。

表2 継続参加意思を従属変数とした階層的重回帰分析

	標準偏回帰係数(β)				
	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4	ステップ5
2. 性別	-0.019	-0.210	-0.013	-0.050	-0.023
3. 年齢	-0.036	-0.088	0.016	-0.012	0.046
4. クラブ・団体ボラ経験 ダミー		0.028	-0.030	0.036	0.007
5. イベントボラ経験 ダミー		0.132	0.069	0.089	0.099
6. スポーツ以外ボラ経験 ダミー		-0.125	-0.096	-0.110	-0.130
7. 参加回数		0.158*	0.118	0.073	0.056
8. 参加動機: 気晴らし			0.193	0.133	0.088
9. 参加動機: 大会支援			0.032	0.003	0.024
10. 参加動機: 自己実現			0.158	0.138	0.105
11. 参加動機: 依頼			-0.019	0.038	0.037
12. 参加動機: 奉仕			0.049	0.009	0.021
13. 評価: 組織サポート				0.191*	0.068
14. 評価: 業務内容				0.218**	0.025
15. 満足					0.380***
F値	0.126	1.910	2.975***	3.900***	5.158***
調整済みR ² 乗	-0.009	0.027	0.108	0.183	0.258

従属変数: 継続参加意思
***P<0.01, **P<0.1, *P<0.5

目次

1. 研究の背景	
1. 1 ボランティアをめぐる環境の変化	1
1. 2 スポーツ・ボランティアの概要	
1. 3 先行研究の検討	
2. 研究目的	6
3. 研究方法	7
3. 1 調査概要	
3. 2 調査項目の選定	
3. 2. 1 参加動機	
3. 2. 2 活動への評価	
3. 2. 3 満足	
3. 2. 4 継続参加意志	
3. 2. 5 その他の調査項目	
3. 3 分析方法	
4. 結果	12
4. 1 回答者の人口統計学的特性	
4. 2 行動特性	
4. 2. 1 SOWS への参加回数	
4. 2. 2 ボランティア経験	
4. 2. 3 ボランティア・リーダー	
4. 3 心理的特性	

4. 3. 1	参加動機	
4. 3. 2	活動への評価	
4. 3. 3	満足	
4. 3. 4	継続参加意志	
4. 4	その他の項目（活動場所）	
4. 5	参加動機の因子分析	
4. 6	活動評価の因子分析	
4. 7	重回帰分析	
4. 7. 1	継続参加意思を従属変数とした階層的重回帰分析	
4. 7. 2	満足を従属変数にした重回帰分析（全サンプル）	
5.	考察	25
5. 1	参加動機の因子分析	
5. 2	活動の評価の因子分析	
5. 3	継続参加意思を従属変数とした階層的重回帰分析	
5. 4	満足を従属変数とした重回帰分析	
6.	総括	29
6. 1	まとめ	
6. 2	今後の課題	
	引用・参考文献	33

付録 1：湘南オープンウォータースイミング 2008 概要 付録 2：予備調査・調査票

付録 3：本調査・調査票 謝辞

1. 研究の背景

1.1 ボランティアをめぐる環境の変化

20 世紀後半から、先進国を中心として、市場原理や競争原理のオルタナティブを人々が求め、財政的に行き詰ったそれぞれの福祉国家が、無償の経済活動への依存を強めようとしている。現在は、人々のボランティアな活動が社会の不可欠な構成要素となっている¹⁾。日本では、1995 年に阪神・淡路大震災に見舞われた際に 150 万人のボランティアが活動をしたとされ、多くの国民にボランティアが注目される事となる。1998 年 12 月より特定非営利活動促進法（NPO 法）が施行され、2002 年 12 月には改正 NPO 法が成立し、ボランティアの活動のための環境が整備された。また、2001 年は国連によって「ボランティア国際年（International Year of Volunteers=IYV）」と定められ、全世界的にボランティアな活動が活発に行うための強化でもあり、きっかけともなっている。

また、90 年代後半からのボランティアをめぐる状況の変化はボランティアを受け入れる組織の多様化と拡大を推し進め、従来、ボランティア活動の分野は福祉分野の対人サービス活動を指していたが、90 年代には様々な分野の活動もボランティアと捉えられるようになった。²⁾ そのような環境の変化のなかで「スポーツ・ボランティア」という存在が誕生している。

1.2 スポーツ・ボランティアの概要

わが国のスポーツの世界において近年まで「ボランティア」という言葉は存在しなかった。³⁾ スポーツイベントにおいて、ボランティアが公募され、初めて組織的に活躍したのは「ユニバーシアード神戸大会」（1985 年）であり、それ以前は競技団体や自治会・町内会に割り当てられた「団体依頼型」であり、スポーツ少年団や地域スポーツクラブにおいて

父親や体育教員が無償で指導するのが当然だった。中澤は、特定のスポーツに深く関わった人々に加えて、広く一般の人々のボランティアによるスポーツの支援が次第に一般化して「スポーツ・ボランティア」という概念が1990年代中頃に登場したと述べる。⁴⁾

SSF 笹川スポーツ財団はスポーツのボランティア活動とは、「報酬を目的とせず自分の労力、技術、時間を提供して地域社会や個人・団体のスポーツ推進のために行う活動のことを意味する。ただし、活動にかかる交通費等、実費程度の金額の支払いは報酬に含めない」としている。⁵⁾ また、文部省「スポーツにおけるボランティア活動の実態等に関する調査研究報告書」⁶⁾ では、スポーツ・ボランティアを「地域におけるスポーツクラブやスポーツ団体において、報酬を目的としないで、クラブ・団体の運営や指導活動を日常的に支えたり、また、国際競技大会や地域スポーツ大会などにおいて、専門能力や時間などを進んで提供し、大会の運営を支える人のこと」と定義している。

山口は、スポーツ・ボランティアは大きく分けて「クラブ・団体ボランティア」「イベント・ボランティア」「アスリート・ボランティア」の3つに大別しており、表1はその3つの種類と役割を示している。

表1 スポーツ・ボランティアの種類と役割 (山口 2004 p8)

クラブ・団体ボランティア 日常的:活動の場 =クラブ・スポーツ団体	ボランティア指導者	監督・コーチ、アシスタント指導者
	運営ボランティア	クラブ役員・幹事、世話係、運搬・運転、 広報・データ処理、競技団体役員等
イベント・ボランティア 非日常的:活動の場 =地域スポーツ大会、 国際・全国スポーツ大会	専門ボランティア	審判員、通訳、医療救護、大会役員、情報処理等
	一般ボランティア	給水・給食、案内・受付、記録・掲示、交通整理、 運搬・運転、ホストファミリー等
アスリート・ボランティア	プロスポーツ選手 トップアスリート	福祉施設・スポーツクラブ訪問、イベント参加等

SSF は、隔年で全国の市区町村在住の満 20 歳以上の男女 3000 人を対象に実施している「スポーツライフ・データ～スポーツライフに関する調査」に 1994 年からスポーツ・ボランティアに関する調査項目を加えている。同調査によれば、一貫して男性の方がスポーツ・ボランティアに多く参加し、2002 年の実施率 7.0%から成人のスポーツ・ボランティア人口を約 704 万人と推計している。同調査での今後の実施希望者は男性 18.9%、女性 10.1%であり、男性の割合が高くなっている。⁵⁾ (図 1)

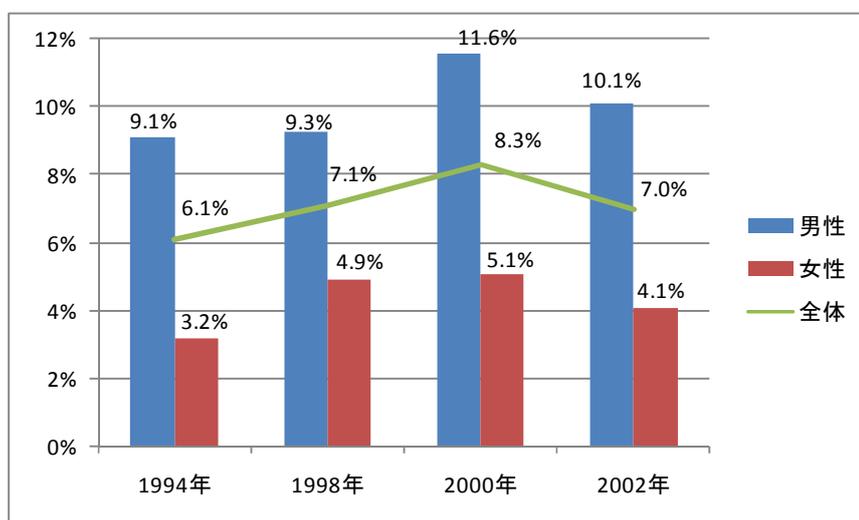


図 1 スポーツ・ボランティア実施率の推移 (スポーツ・ボランティアデータブック 2004 p6)

また、経済企画庁が回答者 2,580 人に対して行った「国民選好度調査」では「あなたは、今後、ボランティア活動に参加してみたいと思いますか。」(複数回答)という問いに対して、「体育・スポーツ・文化に関する活動」を行ってみたいと答えたのは全体の 33.4%であった。今後の参加希望に関して男性の割合が高くなっている。⁷⁾ (図 2)

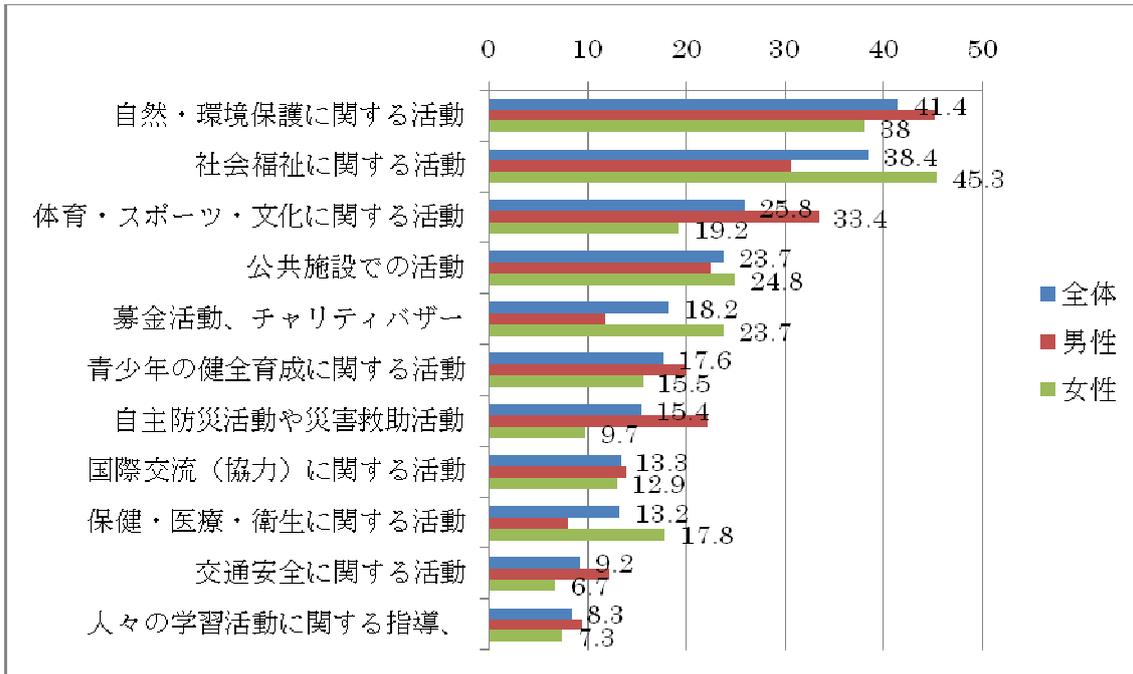


図2 今後参加したいボランティア活動分野(国民生活白書 2000 p26)

また、表2のようにスポーツイベントでは規模の大小に関わらず、ボランティアが活動している。

表2 ボランティアが参加するスポーツイベント

開催年	大会名	ボランティア数(人)
1984	ロサンゼルス五輪(米国)	40,000
1985	ユニバーシアード神戸大会	8,300
1991	指宿菜の花マラソン	900
1994	広島アジア大会	10,000
1995	ユニバーシアード福岡大会	12,500
1998	長野冬季オリンピック	32,579
1998	長野冬季パラリンピック	2,654
1998	かながわ・ゆめ国体	5,600
2000	シドニー五輪(豪州)	46,000
2000	大分国際車いすマラソン大会	3,000
2001	ワールドゲームズ秋田大会	3,841
2001	世界移植者スポーツ大会神戸大会	1,484
2002	日韓共催サッカーワールドカップ	14,655
2003	ニューヨークシティマラソン(米国)	13,000
2005	SO冬季世界大会・長野	9,935
2007	秋田わか杉国体	2,646
2007	東京シティサイクリング	100
2007	東京マラソン2007	12,000

(山口 2004, スポーツボランティア・ハンドブック 2008 より抜粋)

国内で、ボランティアが参加するスポーツイベントが多数行われる一方で、ボランティアが集まらず大会を中止せざるを得なかったケースもある。「秋田内陸リゾートカップ100キロチャレンジマラソン」は1989年に始まり、毎年開催されてきたが、地域経済の冷え込み、人口減もあり、協賛金やボランティアスタッフが集まりにくくなり、2006、2007年は中止を余儀なくされた。⁹⁾ スポーツイベントにとって事業を継続的に行うためには、参加するボランティアの確保は大きな問題となるだろう。一般の顧客と同様にボランティアも、新規獲得にかかるコストは継続にかかるコストよりも高いと考えられる。また、同じイベントにボランティアが継続参加することで、活動に対するスキルの向上といった面も考えられる。そのような点から特にボランティアに対して継続参加を促す施策が求められると考える。

1.3 先行研究の検討

わが国におけるスポーツ・ボランティアに関する研究は、主にイベント・ボランティアに対して行われており、参加動機と属性の関係性を明らかにするものが多い。^{10) 11) 12) 13)} 松本らでは、障害者スポーツイベントにおけるボランティアの参加動機を性別、年代別、ボランティア活動経験別に分析し、それぞれの属性で参加動機が異なることを明らかにしている。

ボランティアの継続参加についての研究も行われ、桜井¹⁴⁾ はボランティアグループやNPOで活動するボランティアを対象に調査を行い、年代によって活動継続要因が異なっていることを明らかにしている。安藤・広瀬¹⁵⁾ は環境運動を対象とする学生ボランティアの活動継続意図は「個人として得られるもの」に関わる要因が活動継続意図との関連が強か

ったと述べている。綿¹⁶⁾は地域スポーツイベントにおけるボランティアを初参加者と活動経験者に分け、参加動機項目、継続意欲それぞれに差異があるとしている。松本ら¹⁷⁾は、クラブ・団体ボランティアの活動継続意欲は組織コミットメントと参加動機によって規定され、性別によって異なる参加動機が影響を与えていることを明らかにしている。山口¹⁸⁾はイベントの成功に対する達成動機とボランティア動機が高いほど、活動の満足度も高く、その結果がボランティア活動の継続意欲にも強い影響を及ぼしていることを明らかにした。

2. 研究目的

以上を踏まえ、本研究の目的は、スポーツイベントに参加するボランティアの継続参加意思に影響を与える要因を明らかにする事である。

3. 研究方法

3.1 調査概要

本研究では「湘南オープンウォータースイミング 2008（以下、SOWS2008）」を調査フィールドとして設定した。SOWSが開催されるのは今回で5回目である。SOWS2008の概要を付録1に示す。

今回の調査概要、ならびに回収数、有効回答率を表3に示した。回答の信頼性を保つため18歳未満と回答したもの、「継続参加意思」（問9）に回答していないサンプルは本研究では扱わない事とした。

表3 調査概要と回収結果

対象者	477名（SOWS2008の全ボランティア登録者）
調査方法	郵送法による質問紙調査 活動終了後に調査票、返信用封筒（切手貼布済み）を配布し、記入後にSSFへ返送 8月22日（金）に全員へ葉書で督促状を送付した
調査期間	2008年8月8日（金）～8月31日（日）
回収数	219 （回収率：45.9%）
有効回収数	208 （有効回収率：43.6%）

3.2 調査項目の選定

3.2.1 参加動機

スポーツイベントに参加するボランティアの参加動機を探るために、先行研究を参考に、予備調査を行った上で本調査の項目を設定した。欧米でのボランティアモチベーション研究における代表的なモデルである^{19) 20)} VFI（the Volunteer Functions Inventory）モデルと、松本ら¹⁷⁾の研究における参加動機項目を参考に、SOWS2008に参加するボラン

ティアリーダーを対象に行われた事前説明会において予備調査を実施した。(集合調査法)
2008年7月28、29日に行い、有効回収数は62(有効回収率:76.5%)となっている。(付録2:予備調査 調査票)

そこで得られた結果を元に項目分析を行い、参加動機項目の検討を行った。²¹⁾ 平均値と標準偏差(SD)を求め、44項目から平均値とSDから、各項目に天井効果、フロア効果が見られた10項目を削除した。その後、残りの34項目に対して因子分析(主因子法、プロマックス回転)をおこなった。因子分析を繰り返し、因子負荷量.400を基準に、下回った項目をはずして再度因子分析を行い、8因子31項目(累積寄与率70.78%)を得た。その結果を得て、ボランティア・マネジメントを行う専門家(SOWS主催者)の意見を参考に最終的に28項目を決定し、「1:全くあてはまらない」から「5:とてもあてはまる」までの5段階の間隔尺度を設定した。

3.2.2 活動への評価

桜井は、ボランティアの参加動機によって継続性に違いが見られることが複数の研究によって指摘されているが、それらの研究では参加動機要因以外の要因が検証に扱われておらず、慎重な理解が必要だと述べている。²¹⁾ また、柏木は、ボランティアは組織の事業や運営に共鳴して長期間のボランティアを行う「信念型」と、特定の仕事に興味を持ち、ボランティアの機会を求める「参加型」に分けることができ、1980年頃から「参加型」ボランティアが増加しており、「参加型」のボランティアの増加はボランティア・マネジメントの必要性を高めたと言う。²²⁾

そこで、今回の調査では、主催者が行うボランティア・マネジメントが継続参加に影響を与えるかどうかを明らかにするために、(ボランティアの視点からの)「活動への評価」として項目を作成し、質問した。

図3に示したボランティア・マネジメントのトータルプロセスや主催者の意見を参考に15項目を設定し、「1：非常に悪かった」から「5：非常に良かった」までの5段階の間隔尺度を用いて質問した。

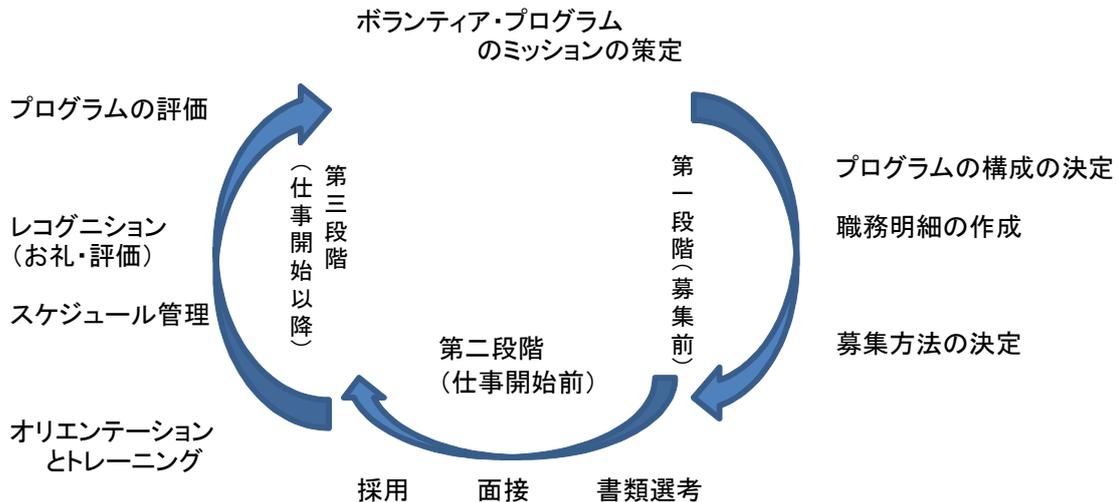


図3 ボランティア・マネジメントのトータルプロセス(柏木 2004 p.80 を基に筆者作成)

3.2.3 満足

「あなたの SOWS2008 でのボランティア活動に参加した上での総合的な満足度をお聞かせください」という質問を設定し、「1：非常に不満」から「7：非常に満足」までの7段階の間隔尺度を用いて質問した。Clary²⁰⁾の「ボランティア活動の満足感」を参考に3項目の質問をした。「与えられた責任に対して非常に満足している」「今回の経験は私にとっ

て非常に有意義だった」「今回の経験は私にとって何も得るものはない)しかし、3項目の信頼性係数が十分な値を示さなかったため ($\alpha=0.623$) 今回の分析には用いなかった。

3.2.4 継続参加意志

「あなたは次回も SOWS のボランティアが募集された場合、参加したいと思いますか。」という質問を設定し、「1: 全く参加したくない」から「7: とても参加したい」までの7段階の間隔尺度を設定した。SOWS は毎年夏に行われており、次回大会が行われる場合は時間の空いた約1年後が想定できるため、本研究では、「継続参加意思」と呼称する。

3.2.5 その他の調査項目

人口統計学的変数として、性別、年齢、職業を設定し、過去の行動的特性として、過去大会の参加回数、今大会での活動内容を質問し、次回大会への消極的理由、ボランティア経験、ボランティアリーダーの確認などを質問した。

3.3 分析方法

「参加動機」「活動に対する評価」に関して、探索的因子分析を行った。その後、抽出した各因子の信頼性の確認をするために、 α 係数の算出を行った。

従属変数「継続参加意思」に影響を与えているものを明らかにするために階層的重回帰分析を行った。独立変数には「ボランティア経験」「参加動機」「活動に対する評価」「ボランティア利益」「満足」を用いた。「ボランティア経験」は活動回数に関する質問の答えを

1 と 0 のダミー変数にして分析に用いた。「参加動機」、「活動に対する評価」はそれぞれの因子得点を用いた。

その後、継続参加意思に間接的に影響を与えている要因を明らかにするために、重回帰分析を行った。

全ての分析において、SPSS 15.0 for Windows を使用している。

4. 結果

4.1 回答者の人口統計学的特性

表 4 に回答者の人口統計学的特性を示した。

表 4 回答者の人口統計学的特

		N	%
性別	男性	142	68.3
	女性	65	31.3
年代	20歳代以下	17	8.3
	30歳代	26	12.6
	40歳代	41	19.9
	50歳代	38	18.4
	60歳代	55	26.7
	70歳代以上	29	14.1
職業	会社員・公務員	82	39.6
	会社員・団体役員等	14	6.8
	自営業	16	7.7
	学生	8	3.9
	主婦	20	9.7
	無職	56	27.1
	その他	11	5.3
住所	神奈川県	111	56.3
	東京都	60	30.5
	埼玉県	12	6.1
	千葉県	6	3.0
	群馬県	3	1.5
	北海道	1	0.5
	茨城県	1	0.5
	山梨県	1	0.5
	愛知県	1	0.5
	大阪府	1	0.5

(1) 性別

性別は男性が 68.3%、女性が 31.3%となり、男性が多い傾向が見られた。図 1、図 2 (1. 2) でも見られるように男性の方が参加率、参加希望が多い現状を反映していると考えられる。

(2) 年齢

60 歳代の割合が一番多く、70 歳代以上と合わせると 40.1%となった。平均は 52.6 歳 (標準偏差=15.33) であった。

(3) 職業

職業は会社員・公務員の割合が 39.6%と一番多く、次に無職の 27.1%であった。無職が多い理由は、60 代以上が多い年齢層を反映していると考えられる。

(4) 住所

住所は開催地に近い神奈川県が最も多く、56.3%であった。次いで割合の多い東京都、埼玉県、千葉県、群馬県を合わせると 95%以上となっている。

4.2 行動特性

4.2.1 SOWS への参加回数

「あなたの SOWS のボランティア参加回数は今回で何回目ですか」との質問に表 5 のような回答が得られた。SOWS への初参加者が半数を超え、3 回目以降はあまり変わらない数字となっている。

表 5 SOWS への参加回数

	度数	%
1回目	114	55.34
2回目	42	20.39
3回目	15	7.28
4回目	16	7.77
5回目	19	9.22

4.2.2 ボランティア経験

過去のボランティア経験について「クラブ・団体ボランティア」、「イベント・ボランティア」「スポーツ以外のボランティア」をそれぞれ去年一年に何回行ったか（回数）、何年前から続けているか（年数）を質問した。表 6 に、全サンプルの結果を、表 7 にボランティア経験者のみの結果をのせた。「クラブ・団体ボランティア」、「イベント・ボランティア」については約半数が過去一年間にボランティアに参加している。参加回数についても幅が大きく、過去のボランティア経験については差があることがうかがえる。

表 6 ボランティア経験(全サンプル)

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
クラブ・団体ボランティア経験(回数)	206	0	150	6.60	15.57
クラブ・団体ボランティア(年数)	202	0	44	4.31	7.51
イベントボランティア経験(回数)	204	0	30	2.75	4.89
イベントボランティア経験(年数)	200	0	35	3.73	5.87
スポーツ以外のボランティア経験(回数)	205	0	255	7.41	27.67
スポーツ以外のボランティア経験(年数)	206	0	35	3.48	6.31

表 7 ボランティア経験(ボランティア経験者のみ)

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
クラブ・団体ボランティア経験(回数)	97	1	150	14.02	20.31
クラブ・団体ボランティア(年数)	91	0.5	44	9.41	8.76
イベントボランティア経験(回数)	109	1	30	5.15	5.70
イベントボランティア経験(年数)	101	1	35	7.07	6.56
スポーツ以外のボランティア経験(回数)	79	1	255	19.24	42.09
スポーツ以外のボランティア経験(年数)	77	0.5	35	8.97	7.46

4.2.3 ボランティア・リーダー

SSF が認定したボランティア・リーダーか尋ねたところ、ボランティア・リーダーであると答えたのは 38.6%となった。(表 8)

表 8 ボランティア・リーダー

	N	%
ボランティア・リーダー	80	38.6
ボランティア・リーダーではなし	127	61.4

4.3 心理的特性

4.3.1 参加動機

参加動機項目の回答は、「参加者（選手）の活動を支援したいから」「活動内容に興味があるから」「継続してボランティアに関わっていたいから」が上位3項目になった。「寂しさを感じないですむから」「知人や友人に頼まれたから」「他人から認められたいから」が下位3項目になった。（表9）

表9 参加動機項目

	度数	平均値	標準偏差
他人の役に立ちたいから	206	3.70	1.14
新しい自分を発見したいから	206	3.27	1.18
大会から依頼されたから	205	2.30	1.39
他人から感謝される活動がしたいから	203	2.97	1.28
ボランティアの必要性を他人に理解してもらいたいから	203	2.87	1.22
活動への参加に義務感を感じたから	205	2.35	1.28
仕事に役立つと思われる新たな出会いの場となるから	203	2.51	1.32
人生を意義あるものにしたいから	205	3.71	1.04
参加者（選手）の活動を支援したいから	208	4.13	1.03
継続してボランティアに関わっていたいから	206	3.84	1.16
寂しさを感じないですむから	205	1.80	1.07
活動を通して地域社会の役に立ちたいから	206	3.46	1.18
気分転換になるから	206	3.09	1.27
大会の運営に役立ちたいから	205	3.80	1.04
自分の親しい人にとっての重要な活動だから	203	2.18	1.21
大会にボランティアの必要性を感じたから	206	3.76	1.13
活動内容に興味があるから	206	3.87	1.07
いろいろな人と付き合っていく方法が学べるから	205	3.34	1.14
ストレス解消になるから	205	2.62	1.28
技術や技能が得られるから	206	2.60	1.21
余暇時間を有効に過ごしたいから	207	3.20	1.27
知人や友人に頼まれたから	204	1.54	0.97
自分が必要とされていることを実感させてくれるから	205	2.73	1.11
自分自身が成長したいから	204	3.46	1.20
自分の知識や経験を生かしたいから	204	3.29	1.15
日常生活に変化を持たせたいから	203	3.12	1.18
他人から認められたいから	202	2.13	1.08
参加者（選手）と交流することができるから	203	3.06	1.21

4.3.2 活動への評価

活動への評価についての回答は、表 10 のような結果となった。「大会当日のボランティア・リーダーの指示」、「説明会での説明について」、「クロージングパーティについて」の回答が少なくなっているが、「大会当日のボランティア・リーダーの指示」は一般ボランティアのみ、「説明会での説明について」はボランティア・リーダーのみが答える質問であるために、「クロージングパーティについて」は、クロージングパーティーとは、大会最終日にボランティアをねぎらうためにスタッフ・ボランティアのみが参加して行われたもので、業務の一部ではないため一部のボランティアは参加しておらず、回答が少なくなっている。

表 10 活動への評価

	度数	平均値	標準偏差
マニュアルの分かりやすさ	196	3.53	0.88
ウェア (Tシャツ) のデザイン	203	3.78	0.98
事務局スタッフの対応	202	4.00	0.87
ボランティアの募集人数について	200	3.65	0.86
ボランティアの募集期間について	199	3.64	0.85
ボランティアの募集方法について	199	3.68	0.83
ボランティアの活動配置について	200	3.70	0.93
大会当日のスタッフの指示	198	3.77	0.96
担当した活動の内容	203	3.87	0.87
担当した活動の量	203	3.74	0.93
担当した活動の拘束時間	199	3.87	0.85
クロージングパーティについて	106	3.57	0.92
泳者のマナーについて	158	3.82	0.87
大会当日のボランティア・リーダーの指示	140	3.74	1.08
説明会での説明について	63	3.76	1.01

4.3.3 満足

「あなたの SOWS2008 でのボランティア活動に参加した上での総合的な満足度をお聞かせください」（「1：非常に不満」から「7：とても満足」）という質問では表 11、図 4 のように回答が得られた。

表 11 満足

	度数	平均値	標準偏差
満足	207	5.53	1.08

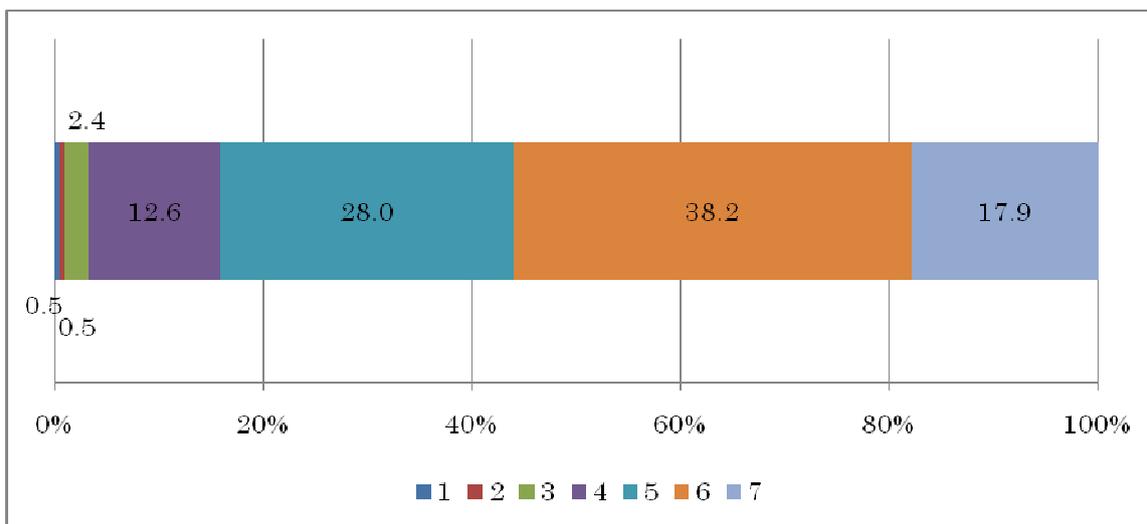


図 4 ボランティア活動に参加後の満足

4.3.4 継続参加意志

「あなたは次回も SOWS のボランティアが募集された場合、参加したいと思いますか。」という質問（「1：全く参加したくない」～「7：とても参加したい」）では、「1」「2」をつけるものがおらず、平均が 6.03 となった。（表 12 図 5）

表 12 継続参加意思

	度数	平均値	標準偏差
継続参加意思	208	6.03	1.12

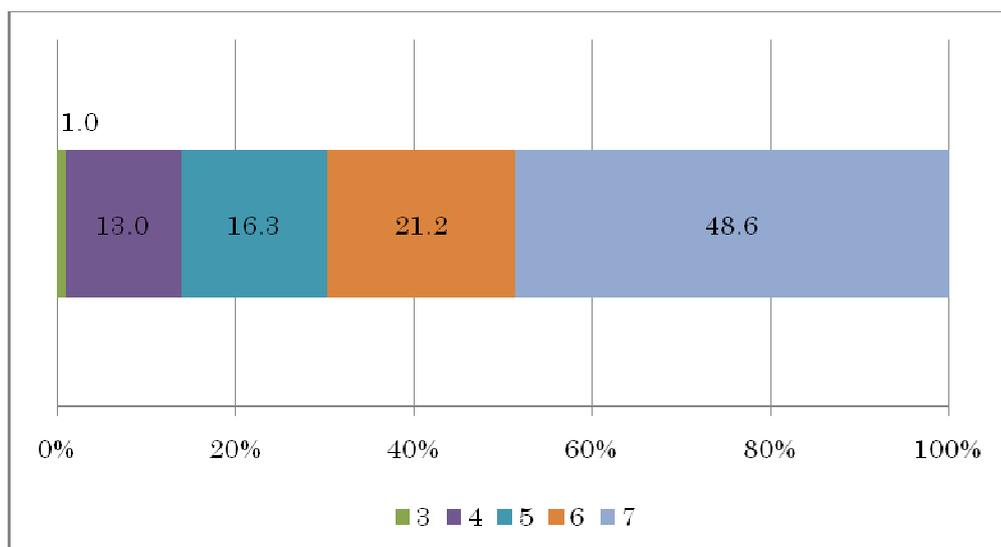


図5 継続参加意思

4.4 その他の項目(活動場所)

回答者の活動を質問したところ、表13のような結果となった。屋内での活動である「参加者登録受付」が一番多く、専門的なスキルを持つものが多く担当する「海上でのサポート」は一番少なかった。

表13 回答者の活動場所(複数回答)

	N	%
参加者登録受付	65	20.8%
ビーチクリーン	52	16.6%
10Kmスタート	31	9.9%
0.8Kmスイムツアー	28	8.9%
10Kmゴール	51	16.3%
2.5Kmスタート	29	9.3%
2.5Kmゴール	52	16.6%
海上でのサポート	5	1.6%
合計	313	100.0%

4.5 参加動機の因子分析

サンプルの参加動機を把握するために、参加動機項目について因子分析（バリマックス回転）を行った。その結果、表 15 に示されるように 25 項目 8 因子を抽出した。累積寄与率は 59.75%である。これら 5 因子をそれぞれ次のように命名した。

第 1 因子は、イベントに参加し、日常生活から離れることで、自分自身をリフレッシュさせたい項目が見られることから「気晴らし」と命名した。

第 2 因子は、イベントの主役である選手や大会の支援をするという利他的な動機項目が高い因子寄与率を示していることから「大会支援」と命名した。

第 3 因子は、自分自身の成長、新しい知識や経験、出会いの獲得、参加者との交流など自分の持つ利己的な欲求を達成したいという項目から構成されるため「自己実現」と名付けた。

第 4 因子は、知人や友人、大会から頼まれたなど、参加に他律的な動機としてとらえることができるため「依頼」とした。

第 5 因子は、他人や地域社会のために役立つ活動がしたい、また、この活動が他人から感謝される公共的な活動として捉えていると考えられるため、「奉仕」と命名した。

また、各参加動機因子項目の因子寄与率、因子負荷量、信頼性は表 14 に示したとおり

である。

表 14 参加動機の因子分析結果

参加動機因子	累積寄与率	因子負荷量	Cronbachs' α
【気晴らし】	11.6		0.849
日常生活に変化を持たせたいから		0.770	
気分転換になるから		0.748	
ストレス解消になるから		0.711	
余暇時間を有効に過ごしたいから		0.615	
【大会支援】	22.6		0.805
参加者(選手)の活動を支援したいから		0.686	
大会にボランティアの必要性を感じたから		0.685	
大会の運営に役立ちたいから		0.573	
活動内容に興味があるから		0.463	
継続してボランティアに関わりたいから		0.441	
人生を意義あるものにしたいから		0.427	
【自己実現】	32.8		0.814
自分自身が成長したいから		0.624	
自分の知識や経験を生かしたいから		0.574	
いろいろな人と付き合っていく方法が学べるから		0.571	
新しい自分を発見したいから		0.548	
参加者(選手)と交流することができるから		0.526	
仕事に役立つと思われる新たな出会いの場となるから		0.461	
【依頼】	42.0		0.743
知人や友人に頼まれたから		0.633	
自分の親しい人にとっての重要な活動だから		0.571	
自分が必要とされていることを実感させてくれるから		0.550	
活動への参加に義務感を感じたから		0.547	
寂しさを感じないですむから		0.538	
大会から依頼されたから		0.522	
【奉仕】	50.0		0.750
他人の役に立ちたいから		0.715	
他人から感謝される活動がしたいから		0.615	
活動を通して地域社会の役に立ちたいから		0.535	

4.6 活動評価の因子分析

次に活動に対する評価を把握するために、活動評価項目について因子分析（バリマックス回転）を行った。因子分析を行う際にサンプル数が著しく少なくなるため、「クロージングパーティーについて」「大会当日のボランティア・リーダーの指示」「説明化での説明について」は分析から除外した。その結果、表 15 に示されるように 8 項目 2 因子を抽出した。累積寄与率は 59.75%である。これら 2 因子をそれぞれ次のように命名した。

第1因子は、ボランティア活動をサポートする主催者の活動を評価する項目であることから「組織サポート」と命名した。

第2因子は、個人それぞれが担当した活動に対する評価項目なので「業務内容」と命名した。

表 15 活動に対する評価の因子分析結果

参加動機因子	累積寄与率	因子負荷量	Cronbachs' α
【組織サポート】	33.87		0.836
ボランティアの募集人数について		0.771	
ボランティアの募集期間について		0.762	
ボランティアの募集方法について		0.694	
事務局スタッフの対応		0.643	
マニュアルの分かりやすさ		0.513	
ウェア(Tシャツ)のデザイン		0.417	
【業務内容】	57.15		0.890
担当した活動の内容		0.904	
担当した活動の量		0.778	

項目数が少ない場合、信頼性が高くなるので、項目間の相関を確認することが必要になる。「業務内容」項目の「担当した活動の内容」「担当した活動の量」の相関係数は(0.803)であり、強い相関を示し、因子として妥当であると考えた。

4.7 重回帰分析

4.7.1 継続参加意思を従属変数とした階層的重回帰分析

「継続参加意思」を被説明変数とし、「属性」、「過去の行動特性」、「参加動機」、「活動への

評価」、「満足」の影響を詳細に把握する目的で階層的重回帰分析（強制投入法）を行った。

ボランティア経験は、「ボランティア経験：回数」を基に、分散が大きいと判断したため、ダミー変数を用いた（経験者=1 非経験者=0）。

性別、年齢からなる「属性」からなるステップ1では従属変数は有意に説明するものはあられなかった。

ステップ1にボランティア経験、過去大会の参加という「過去の行動特性」を加えたステップ2では、継続参加意思の説明力は小さいが過去大会の参加が継続参加意思に有意に正の影響を与えることが示された。

ステップ2に「参加動機」を加えたものがステップ3である。ステップ3では継続参加意思に有意に影響を与える項目はなかった。

ステップ3に「活動の評価」を加えたものがステップ4である。「活動の評価」が2因子とも継続参加意思に有意に正の影響を与えていることが示された。

ステップ5ではステップ4に「満足」を説明変数に加えたところ、「満足」のみが有意に従属変数を説明する変数となった。

表 16 継続参加意思を従属変数とした階層的重回帰分析(全サンプル)

	標準偏回帰係数(β)					単純相関係数
	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4	ステップ5	
2. 性別	-0.019	-0.210	-0.013	-0.050	-0.023	-0.020
3. 年齢	-0.036	-0.088	0.016	-0.012	0.046	-0.030
4. クラブ・団体ボラ経験 ダミー		0.028	-0.030	0.036	0.007	0.006
5. イベントボラ経験 ダミー		0.132	0.069	0.089	0.099	0.135
6. スポーツ以外ボラ経験 ダミー		-0.125	-0.096	-0.110	-0.130	-0.083
7. 参加回数		0.158*	0.118	0.073	0.056	0.177*
8. 参加動機: 気晴らし			0.193	0.133	0.088	0.340**
9. 参加動機: 大会支援			0.032	0.003	0.024	0.198**
10. 参加動機: 自己実現			0.158	0.138	0.105	0.338**
11. 参加動機: 依頼			-0.019	0.038	0.037	0.094
12. 参加動機: 奉仕			0.049	0.009	0.021	0.299**
13. 評価: 組織サポート				0.191*	0.068	0.253**
14. 評価: 業務内容				0.218**	0.025	0.273**
15. 満足					0.380***	0.496**
F値	0.126	1.910	2.975***	3.900***	5.158***	
調整済みR ² 乗	-0.009	0.027	0.108	0.183	0.258	

従属変数: 継続参加意思 ***P<0.01, **P<0.1, *P<0.5

表 17 重回帰分析に用いる変数の相関

変数	1	2	3	4	5	6	7
1. 継続参加意思	1						
2. 性別	-0.020	1					
3. 年齢	-0.030	-0.315**	1				
4. クラブ・団体ボラ経験 ダミー	0.006	-0.147*	0.374**	1			
5. イベントボラ経験 ダミー	0.135	-0.317**	0.292**	0.200**	1		
6. スポーツ以外ボラ経験 ダミー	-0.083	-0.177*	0.305**	0.281**	0.230**	1	
7. 参加回数	0.177*	-0.091	0.193**	0.060	0.199**	0.112	1
8. 参加動機: 気晴らし	0.340**	0.043	-0.189**	-0.015	0.086	-0.014	0.035
9. 参加動機: 大会支援	0.198**	0.068	-0.181*	-0.045	-0.003	0.037	0.097
10. 参加動機: 自己実現	0.338**	-0.032	0.004	0.075	0.131	-0.080	0.039
11. 参加動機: 依頼	0.094	-0.045	0.145*	0.079	0.006	0.048	0.203**
12. 参加動機: 奉仕	0.299**	-0.041	-0.049	-0.009	0.050	-0.098	0.090
13. 評価: 組織サポート	0.253**	-0.013	0.002	-0.149*	-0.039	-0.053	0.045
14. 評価: 業務内容	0.273**	0.129	-0.049	0.016	0.019	-0.103	-0.002
15. 満足	0.496**	0.035	-0.110	0.037	0.013	-0.025	0.060

(続き)

変数	8	9	10	11	12	13	14
1. 継続参加意思							
2. 性別							
3. 年齢							
4. クラブ・団体ボラ経験 ダミー							
5. イベントボラ経験 ダミー							
6. スポーツ以外ボラ経験 ダミー							
7. 参加回数							
8. 参加動機: 気晴らし	1						
9. 参加動機: 大会支援	0.641**	1					
10. 参加動機: 自己実現	0.546**	0.132	1				
11. 参加動機: 依頼	0.377**	0.488**	-0.068	1			
12. 参加動機: 奉仕	0.652**	0.412**	0.573**	0.320**	1		
13. 評価: 組織サポート	0.208**	0.125	0.182*	0.016	0.261**	1	
14. 評価: 業務内容	0.160*	0.078	0.162*	0.012	0.086	0.107	1
15. 満足	0.301**	0.170*	0.273**	0.045	0.237**	0.390**	0.511**

**P<0.1, *P<0.5

4.7.2 満足を従属変数にした重回帰分析

「継続参加意思」に影響を与えていた「満足」を従属変数にして重回帰分析を行ったところ「評価：組織サポート」「評価：業務内容」が有意に正の影響を与えていることが明らかになった。(表 18)

表 18 満足を従属変数とした重回帰分析

独立変数	標準化偏回帰係数(β)
クラブボランティア経験	0.050
イベント経験	-0.029
スポーツ以外経験	0.053
参加回数	0.036
参加動機:気晴らし	0.143
参加動機:大会支援	-0.006
参加動機:自己実現	0.090
参加動機:依頼	-0.036
参加動機:奉仕	-0.010
評価:組織サポート	0.282***
評価:業務内容	0.471***
従属変数:満足	調整済みR ² 乗=0.388 ***P<0.01

5. 考察

5.1 参加動機の因子分析

本研究では、参加動機を因子分析し、「気晴らし」「大会支援」「自己実現」「依頼」「奉仕」の5つの因子を抽出した。ボランティア活動への参加動機は利他的な動機と利己的な動機に大別される²⁾が、今回の結果でも複合的な動機をもっていることが明らかになった。

スポーツ・ボランティアの参加動機に関する研究では、松岡ら¹¹⁾が先行研究を分類し、ケーススタディも用いて8つの要素「社交」「学習・経験」「個人的興味」「キャリア」「自己陶冶」「組織的義務」「社会的義務」「スポーツ」を示している。また、松本ら¹³⁾は、調査を行った上で因子分析を行い、同様に8つの因子を抽出している。松本の調査では、知

的発達障害者のスポーツ全国大会の活動を支えるボランティアを対象にしている。松本は第一因子「自己実現」、第二因子「社会貢献」、第三因子「選手支援」、第四因子「レクリエーション」、第五因子「依頼」、第六因子「スポーツ活動」、第七因子「自己実現」、第八因子「報酬」を抽出している。(累積寄与率：52.943%)

5.2 活動の評価の因子分析

活動の評価項目から2因子が抽出され、「組織サポート」「業務内容」と命名した。ボランティア・マネジメントの段階ごとに分解されるのではなく、「組織サポート」は参加したボランティア全体に関わるマネジメントであり、「業務内容」は個々の活動場所や活動内容によって規定される因子であることが考えられる。桜井²⁾は、ボランティアの活動継続には状況への態度要因が影響を与えているという。その具体的な項目として先行研究の考察から、「組織サポート」「業務内容」「集団性」「自己効用感」を挙げている。本研究では、主催者が具体的に行うマネジメントのみを調査項目に採用したため、「組織サポート」「業務内容」の二点が抽出されたと考えられ、今回の因子分析結果は妥当なものだと考える。

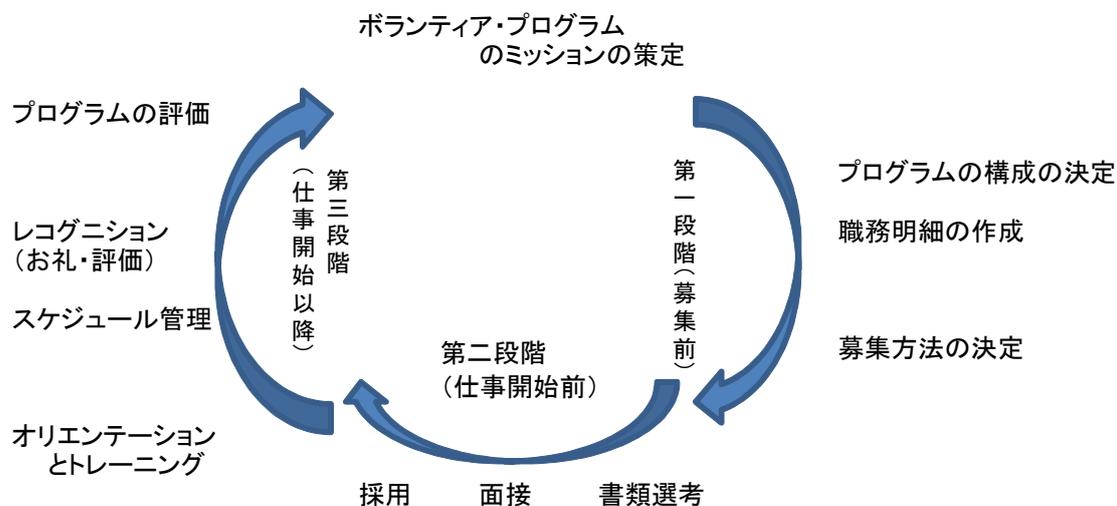


図6 ボランティア・マネジメントのトータルプロセス(再掲)

5.3 継続参加意思を従属変数とした階層的重回帰分析

「継続参加意思」を被説明変数とし、「属性」、「過去の行動特性」、「参加動機」、「活動への評価」、「満足」の影響を把握する目的で重回帰分析を行った。

「行動特性」を加えたステップ 2 では、継続参加意思の説明力は小さいが、過去大会の参加が継続参加意思に有意に正の影響を与えることが示された。綿らの地域スポーツイベントに参加するボランティアの研究でも、初参加者と活動継続者の比較では活動継続している方が、継続意欲が高いことを明らかにしている。本研究でも同じような結果が得られた。これは、過去の大会で満足を得た層が続けて大会に参加し続けていることが考えられる。

ステップ 2 に「参加動機」を含めたステップ 3 では従属変数を有意に説明する変数は表れなかった。

ステップ3に「活動への評価」を加えたものがステップ4である。「活動への評価」が2因子とも継続参加意思に有意に正の影響を与えていることが示された。このことからスポーツイベントに参加するボランティアは、柏木のいう「参加型」のボランティア²²⁾であって、ボランティア・マネジメントの重要性が示唆されるのではないだろうか。

「満足」も含め、全ての説明変数を含めた分析では、「満足」のみが有意に従属変数を説明する変数となった。「満足」は変数の中で「継続参加意思」との相関も一番高かった。このことから、様々な参加動機が認められるなかで、個人それぞれの「満足」を満たす事が「継続参加意思」に影響を与える事が示唆される。

また有意な水準ではないが、スポーツ以外のボランティア経験は一貫して継続参加意思に負の影響を与えていた。他のボランティア活動に参加する人は、様々な事に興味がある、または、時間の確保が難しいといった事が考えられる。

5. 4 満足に従属変数とした重回帰分析

「満足」は、「継続参加意思」に有意に正の影響を与えているという結果を受けて、「満足」に従属変数にして重回帰分析（強制投入法）を行ったところ「評価：組織サポート」「評価：業務内容」が有意に正の影響を与えていた。「活動に対する評価」から「満足」に影響を与え、「継続参加意思」に間接的に影響を与える可能性が示唆された。

本研究では、参加動機項目はボランティアの継続参加意思、満足それぞれに直接影響を与えないという分析結果が出た。桜井の、ボランティア活動の継続性を検証する際に参加動機要因以外の要因を検証に扱わない場合に慎重な理解が必要との考察を支持する結果と

なったといえる。

6. 総括

6.1 まとめ

本研究では、スポーツイベントに参加するボランティアの継続参加意思について、影響を与える要因を探索的に明らかにすることを目的として、夏のオープンウォータースイミングでの大会に参加するボランティアを対象に質問紙調査を実施し、「属性」「過去の経験」「参加動機」「活動に対する評価」「満足」を基に分析した。

主な結果は次のようになった。

(1) サンプル

男性が多く（68.3%）、若年層が少ない（20代：8.3%）サンプルである。SOWS ボランティアへの初回参加者が 55.3%を占めている。

(2) 参加動機項目を因子分析した結果、第一因子「気晴らし」、第二因子「大会支援」、第三因子「自己実現」、第四因子「依頼」、第五因子「奉仕」を抽出した。

(3) 活動への評価項目を因子分析した結果、第一因子「組織サポート」、第二因子「業務内容」を抽出した。

(4) 「継続参加意思」を規定する要因を探索的に明らかにするために、「属性」「ボランティア経験」「参加動機」「活動に対する評価」「満足」を独立変数とし、階層的重回帰分析を行

ったところ、有意な影響を与えているものが段階的に「過去大会の参加」「活動の評価」「満足」だと明らかになった。

(5) (4) の独立変数を全て投入したところ「満足」が唯一、継続参加意思に影響を与える要因であることが規定された。また、「満足」を従属変数にその他の変数で重回帰分析をしたところ、「活動への評価：組織サポート」「活動への評価：業務内容」が影響を与えていることが規定され、「活動への評価」が「満足」に影響を与え、「継続参加意思」に間接的に影響を与えていることが示唆された。

6.2 今後の課題

「あなたが次回大会のボランティア参加に消極的な場合、その理由をお聞かせください」と質問し、思いあたる全てに複数回答している。(図 7)

上位の 3 項目は、「仕事上の理由」「体力上の理由」「居住地の都合」と主催者のマネジメントとは関係のない、個人的な理由が継続参加への妨げとなっている事が推測できる。ボランティア活動は多くのものにとってセカンダリーでパートタイムな関与に過ぎないため²⁾、ボランティアの行動を検討する際には、個々の生活も分析の背景に含める必要があるだろう。

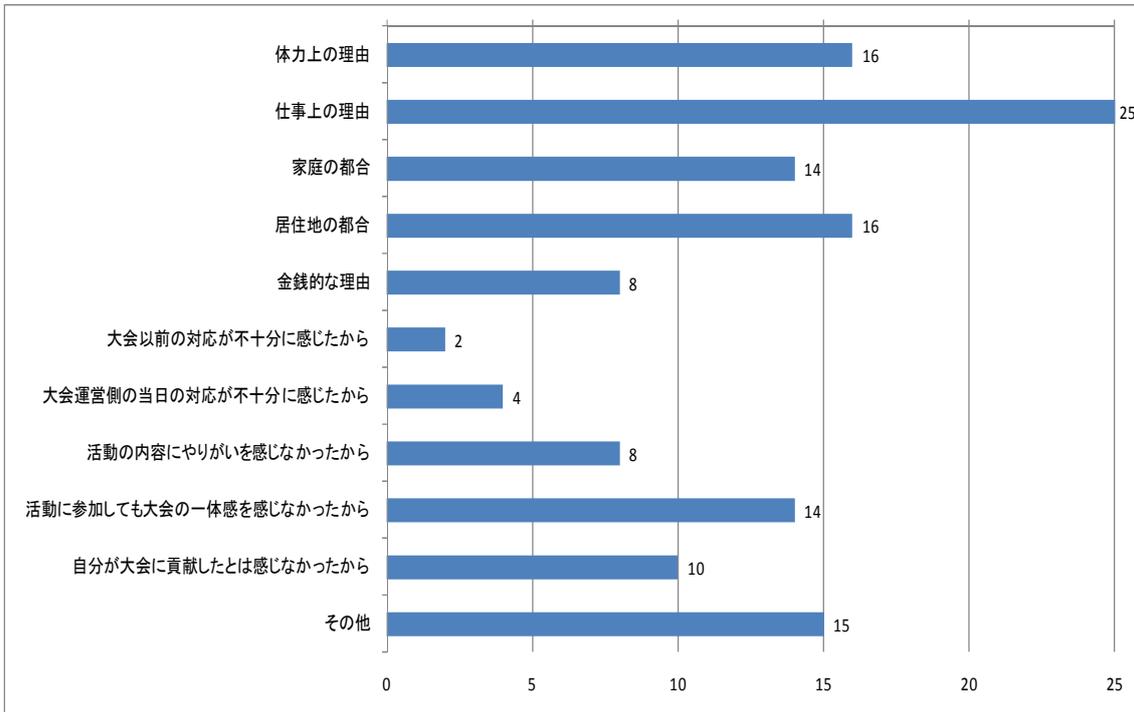


図7 次回大会参加への消極的理由

また、本研究では「活動への評価」が「満足」に影響を与え、「継続参加意思」に間接的に影響を与えていることが示唆されたが、先行研究の考察からまとめられた「状況への態度要因」は4項目あり²⁾、本研究の「活動への評価」はそのうちの2項目「組織サポート」「業務内容」に該当すると考えられる。今回の調査項目では、具体的なボランティア・マネジメントを参加者に評価してもらう事に重点を置いたので、「集団性」「自己効用感」に関する質問は用意せずに質問を行った。「次回大会参加への消極的理由（図7）」では、マネジメント上の理由の中では、「活動に参加しても大会の一体感を感じなかったから」が一番多くの割合を占めた事からも、今後は、「集団性」「自己効用感」も含めた、「(ボランティアの視点による) ボランティア・マネジメントへの評価」尺度を作成する研究が求められるだろう。

本研究では、ボランティアの継続参加意思を規定する要因を探索的に明らかにするために階層的重回帰分析を用いて分析を行った。全説明変数を投入した場合でも決定係数の値は高いとは言えない。その他の説明変数も考慮しての今後の研究の蓄積が求められるだろう。

参考・引用文献

- 1) 齊藤ゆか；ボランティア活動とプロダクティブ・エイジング，第1版，ミネルヴァ書房，2006
- 2) 桜井政成；ボランティアマネジメント，第1版，ミネルヴァ書房，2007
- 3) 山口泰雄；スポーツ・ボランティアへの招待，第1版，世界思想社，2004
- 4) 中澤眞；スポーツ・ボランティア活用の現状と課題，*体育の科学*，52(4)，p266-269，2002
- 5) SSF 笹川スポーツ財団；スポーツ・ボランティア・データブック，2004
- 6) 文部省・スポーツにおけるボランティア活動の実態等に関する調査研究協力者会議；スポーツにおけるボランティア活動の実態等に関する調査研究報告書，2000
- 7) 経済企画庁；国民生活白書（平成12年版），2000
- 8) 日本スポーツボランティア学会；スポーツボランティア・ハンドブック，明和出版，2008
- 9) 毎日新聞 HP 100キロチャレンジマラソン：資金難越え、3年ぶり復活／秋田
<http://124.83.183.241/enta/sports/general/track/akita/archive/news/2008/09/20080927ddlk05050014000c.html>
- 10) 田引俊和；障害者スポーツを支えるボランティアの参加動機に関する研究；*医療福祉研究* 第4号 2008
- 11) 松岡宏高, 小笠原悦子 非営利スポーツ組織を支えるボランティアの動機；*体育の科学*，52(2)，p277-284
- 12) 松本耕二；スポーツ・ボランティアの類型化に関する研究，山口県立大学社会福祉学部紀要，第5号，p11-19
- 13) 松本耕二 他；障害者スポーツイベントにおけるボランティアの参加動機，山口県体育

学研究 46, 2003

14)桜井政成 ; ライフサイクルからみたボランティア活動継続要因の差異, *The Nonprofit Review*, 5(2), p103-113, 2005

15)安藤香織, 広瀬幸雄 ; 環境ボランティア団体における活動継続意図・積極的活動意図の規定因, *社会心理学研究*, 第 15 巻第 2 号, p90-99, 1999

16)綿祐二 他 ; 地域スポーツイベントにおけるボランティア活動の研究, *日本体育学会大会号*, (42A), p146, 1991

17)松本耕二 他 ; スポーツ・ボランティアの参加動機、組織コミットメントと継続意欲, *山口県体育学研究*, p13-22 , 2004

18)山口泰雄 ; 生涯スポーツとイベントの社会学, 第 1 版, 創文企画, 1996

19)坂野純子 他 ; 地域住民におけるボランティア活動への参加動機と満足感の関連性

20) E. Gil Clary ; Understanding and Assessing the Motivations of Volunteers, *A Functional Approach Journal of Personality and Social Psychology*, Vol. 74, No. 6, 1516-1530, 1998

21)中部大学人文学部心理学科 小塩研究室 清潔志向性尺度の作成-1

http://psy.isc.chubu.ac.jp/~oshiolab/teaching_folder/data_b/02/01.html

22)柏木宏 ; NPO マネジメントハンドブック, 第 1 版, 明石書店, 2004

23)高橋桂子 ; 子どものいる女性労働者の「仕事のやりがい感」を規定する要因, *経営行動科学*, 第 20 巻第 3 号, p325-334, 2007

付録 1 : 湘南オープンウォータースイミング 2008 概要

■開催目的

マリンスポーツの普及・振興、新しい競技であるオープンウォータースイミングの発展、地域に根ざしたイベントとしての確立。オープンウォータースイミング 2 種目。
江の島スイムツアー（集団泳）を鎌倉市、藤沢市、逗子市の各海岸で開催した。

■開催日程

2008 年 8 月 8 日	スイマーの参加登録及び出展コーナー（秩父宮記念体育館）
8 月 9 日	オープンウォータースイミング 10km（345 人） 江の島スイムツアー（238 人）
8 月 10 日	オープンウォータースイミング（903 人） フィンスイミング 2.5km（108 人） 江の島スイムツアー（332 人）

■ボランティア

神奈川県内在住者を中心に、大会期間中延べ 688 名（実数 477 名）が参加

8 月 8 日（金）	活動内容	活動場所	人数
	参加登録・会場整理	秩父宮記念体育館	41
	ビーチクリーン	逗子海岸	31
		七里ヶ浜	9
		江の島	38
		片瀬東浜・腰越海岸	22
	ボランティア・リーダー	各会場合計	31
8 月 9 日（土）			
	参加登録・会場整理	秩父宮記念体育館	33
	OWS10km スタート	逗子海岸	49
	江の島スイムツアー	江の島	30
	ゴール会場	片瀬東浜・腰越海岸	61
	ボランティア・リーダー	各会場 合計	80
8 月 10 日（日）			
	OWS2.5km スタート	七里ヶ浜	44
	江の島スイムツアー	江の島	23
	ゴール会場	片瀬東浜・腰越海岸	78
	ボランティア・リーダー	各会場	80

付録2:予備調査 調査票

湘南オープンウォータースイミング 2008 ボランティア調査（予備調査）

財団法人笹川スポーツ財団 湘南オープンウォータースイミングチーム

（協力）早稲田大学スポーツ科学研究科 間野研究室

■この調査用紙は本日回収しますので、終了後にスタッフにお渡しください。■

問 1. あなたがボランティア活動に参加する動機についてお聞きします。

この調査は、湘南オープンウォータースイミング 2008 ボランティア調査のための予備調査です。

本調査はボランティア参加者全員に行い、活動終了後の実施を予定しています。

本調査では、スポーツ・ボランティアの基礎データを収集し、今後の課題や改善点を明らかにしたいと思えます。有意義な本調査を行う為に、予備調査へのご協力をお願い致します。

以下の全ての項目について、あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

1 : 全くあてはまらない 2 : あてはまらない 3 : どちらともいえない 4 : あてはまる 5 : 非常にあてはまる

- | | | | | | |
|------------------------------|---|---|---|---|---|
| 1. 他人の役に立ちたいから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 新しい自分を発見したいから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. 様々な人と出会いたいから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 大会から依頼されたから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 他人から感謝される活動がしたいから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. 社会的な視野を広げるために重要だから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7. ボランティアの必要性を他人に理解してもらいたいから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8. 活動への参加に義務感を感じたから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9. 仕事に役立つと思われる新たな出会いの場となるから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10. 人生を意義あるものにしたいから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11. 他のボランティアと交流する機会が得られるから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12. 社会の一員として当然と思ったから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13. 自分の友人がボランティアに参加しているから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 14. 参加者（選手）の活動を支援したいから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 15. 別の職業を探す機会を与えてくれるから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 16. ボランティアに関わっていたいから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 17. 何事にも挑戦してみたいから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 18. 自分が取り組んでいる事を深めることができるから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 19. 寂しさを感じないですむから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 20. ボランティアは履歴書に書くと良い印象を与えるから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 21. 活動を通して地域社会の役に立ちたいから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 22. 気分転換になるから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 23. 大会の運営に役立ちたいから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 24. 自分の親しい人にとっての重要な活動だから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

- | | | | | | |
|-------------------------------|---|---|---|---|---|
| 25. 他の人よりも恵まれていることへの罪悪感が和らぐから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 26. 大会にボランティアの必要性を感じるから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 27. 新しい知識や経験を得たいから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 28. リラックスする機会が得られるから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 29. 活動内容に興味があるから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 30. いろいろな人と付き合っていく方法が学べるから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 31. ストレス解消になるから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 32. 会社や学校、地域団体で参加することになったから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 33. 記念品がもらえるから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 34. 日常の煩わしいことから逃避したいから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 35. 技術や技能が得られるから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 36. 余暇時間を有効に過ごしたいから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 37. 知人や友人に頼まれたから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 38. 自分が必要とされていることを実感させてくれるから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 39. 自分自身が成長したいから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 40. 自分の知識や経験を生かしたいから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 41. 日常生活に変化を持たせたいから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 42. 他人から認められたいから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 43. 参加者（選手）と交流することができるから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 44. 自分が好ましい人間であることを感じさせてくれるから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

問2. 問1の項目以外に、ボランティア活動に参加する動機があればお書きください。（自由記述）

予備調査へのご協力ありがとうございました。記入終了後は、スタッフにお渡してください。
本調査へのご協力もいただけますよう、何卒よろしくお願い致します。

付録 3:本調査 調査票

湘南オープンウォータースイミング 2008 (SOWS) ボランティア調査

問 1. あなたの SOWS のボランティア参加回数は今回で何回目ですか。 () 回目

問 2. SWOS2008 への参加はどなたかと一緒にされましたか。一緒に参加された場合は何人で参加されましたか。

1. 一人で参加した (あてはまる番号全てに○ 4. その他 を選んだ方は具体的にお書きください。)
 [2. 家族 3. 友人 4. その他 ()] → あなた自身を含めて () 人

問 3. あなたの SOWS2008 の活動内容をお聞かせください。(あてはまる番号全てに○)

1. 参加者登録受付 2. ビーチクリーン 3. 10km スタート 4. 0.8km スイムツアー 5. 10km ゴール
 6. 2.5km スタート 7. 2.5km ゴール 8. 海上でのサポート

問 4. あなたが SOWS2008 のボランティアに参加した動機についてお聞きします。

全ての項目について、あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

	全くあてはまらない	とてもあてはまる
1) 他人の役に立ちたいから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
2) 新しい自分を発見したいから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
3) 大会から依頼されたから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
4) 他人から感謝される活動がしたいから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
5) ボランティアの必要性を他人に理解してもらいたいから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
6) 活動への参加に義務感を感じたから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
7) 仕事に役立つと思われる新たな出会いの場となるから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
8) 人生を意義あるものにしたいから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
9) 参加者(選手)の活動を支援したいから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
10) 継続してボランティアに関わっていたいから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
11) 寂しさを感じないですむから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
12) 活動を通して地域社会の役に立ちたいから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
13) 気分転換になるから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
14) 大会の運営に役立ちたいから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
15) 自分の親しい人にとっての重要な活動だから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
16) 大会にボランティアの必要性を感じたから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
17) 活動内容に興味があるから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
18) いろいろな人と付き合っていく方法が学べるから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
19) ストレス解消になるから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
20) 技術や技能が得られるから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
21) 余暇時間を有効に過ごしたいから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
22) 知人や友人に頼まれたから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
23) 自分が必要とされていることを実感させてくれるから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	

	全くあてはまらない	とてもあてはまる
24) 自分自身が成長したいから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
25) 自分の知識や経験を生かしたいから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
26) 日常生活に変化を持たせたいから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
27) 他人から認められたいから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
28) 参加者（選手）と交流することができるから	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	

問5. あなたは SOWS2008 のボランティア活動に参加し、以下の項目をどのように評価しますか。

あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

14) は一般ボランティアの方のみ、15) はボランティア・リーダーの方のみお答えください。

	非常に悪かった	非常に良かった
1) マニュアルの分かりやすさ	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
2) ウェア（Tシャツ）のデザイン	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
3) 事務局スタッフの対応	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
4) ボランティアの募集人数について	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
5) ボランティアの募集期間について	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
6) ボランティアの募集方法について	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
7) ボランティアの活動配置について	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
8) 大会当日のスタッフの指示	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
9) 担当した活動の内容	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
10) 担当した活動の量	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
11) 担当した活動の拘束時間	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
12) クロージングパーティについて	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
13) 泳者のマナーについて	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
<一般ボランティアのみお答えください>		
14) 大会当日のボランティア・リーダーの指示	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
<ボランティア・リーダーのみお答えください>		
15) 説明会での説明について	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	

問6. あなたは SOWS2008 のボランティアに参加し、以下の項目についてどう感じていますか。

全ての項目について、あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

	全くあてはまらない	とてもあてはまる
1) 自分の価値を表現できた	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
2) 達成感を得た	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
3) 社会についての新しいことを学んだ	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
4) ボランティア活動が高く評価された	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
5) 将来役に立つ技術を学ぶことができた	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
6) 人のために役立つことができた	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
7) 充実した時間を過ごすことができた	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	
8) 思いやりの心が深まった	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5	

全くあてはまらない

とてもあてはまる

- 9) 自分の人間性が豊かになった 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5
- 10) ボランティア活動が楽しかった 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5
- 11) 自分が大会の実現に貢献する事ができた 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5
- 12) 自分の活動が社会貢献になった 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5
- 13) 与えられた責任に対して非常に満足している 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5
- 14) 今回の経験は私にとって非常に有意義だった 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5
- 15) 今回の経験は私にとって何も得るものはない 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5

問7. あなたの SOWS2008 でのボランティア活動に参加した上での総合的な満足度をお聞かせください。
あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

非常に不満

どちらともいえない

非常に満足

1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5 ——— 6 ——— 7

問8. 総合的な参加満足度（問7）に最も影響を与えている要因は何ですか？一言でお答えください。（自由記述）

問9. あなたは次回も SOWS のボランティアが募集された場合、参加したいと思いますか。
あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

全く参加したくない

どちらともいえない

とても参加したい

1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5 ——— 6 ——— 7

問10. あなたが次回大会のボランティア参加に消極的な場合、その理由をお聞かせください。
（あてはまる番号全てに○）

- 1. 体力上の理由 2. 仕事上の理由 3. 家庭の都合 4. 居住地の都合 5. 金銭的な理由
- 6. 大会以前の対応が不十分に感じたから 7. 大会運営側の当日の対応が不十分に感じたから
- 8. 活動の内容にやりがいを感じなかったから 9. 活動に参加しても大会の一体感を感じなかったから
- 10. 自分が大会に貢献したとは感じなかったから 11. その他(理由:)

問11. あなたの SOWS2008 ボランティア活動後の生活についてお聞きします。
あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

全くあてはまらない

とてもあてはまる

- 1) ボランティア参加によって生活が充実した 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5
- 2) ボランティアを生きがいにしたと思うようになった 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5

- | | はい | いいえ |
|---------------------------|----|-----|
| 3) 一緒にボランティア活動をする仲間が出来た | 1 | 2 |
| 4) ボランティア活動以外でも付き合う仲間ができた | 1 | 2 |
| 5) 大会参加者と知人になれた | 1 | 2 |

《ここからは、あなた自身のことについておたずねします。

これらの項目は統計的な処理を行うためのものですので、回答から個人が特定されることは一切ありません。》

問12. あなたのボランティア経験についてお聞きします。あなたが過去1年間で行った、スポーツ・ボランティアの活動回数とスポーツ以外のボランティアの活動回数をお書きください。(数字を記入。説明会などの準備は数に含めません) また、それらの活動が継続した活動の場合、何年前から行われていますか。

《スポーツ・ボランティアの役割》

クラブ・団体ボランティア：地域におけるスポーツクラブやスポーツ団体において、クラブ・団体の運営や指導活動を日常的に支える

イベント・ボランティア：国際競技大会や地域スポーツ大会などにおいて、専門能力や時間などを進んで提供し、大会の運営を支える

- | | | |
|------------------------|---------|------------------|
| 1) クラブ・団体ボランティア | 年 () 回 | ← () 年前から継続している |
| 2) イベント・ボランティア | 年 () 回 | ← () 年前から継続している |
| 3) スポーツ以外のボランティア | 年 () 回 | ← () 年前から継続している |
| 4) オープンウォーターに関するボランティア | 年 () 回 | ← () 年前から継続している |

※ボランティア活動の主なものを具体的にご記入ください

()

問13. あなたはSSF認定のボランティア・リーダーですか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. ボランティア・リーダーである 2. ボランティア・リーダーではない

問14. あなたの年齢を記入し、性別の番号に○をつけてください。

年齢 () 歳 性別 [1. 男性 2. 女性]

問15. あなたの職業をお答えください。あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

1. 会社員・公務員 2. 会社員・団体等役員 3. 自営業
4. 学生 5. 主婦 6. 無職 7. その他 ()

問16. あなたのお住まいの郵便番号をご記入ください

□□□□ - □□□□□□

■大会主催者へご意見・ご要望がありましたら、以下の空欄にご自由にお書きください。

問は以上です。アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

所定の封筒に入れて、お送りいただくようお願いします。

ご不明な点などございましたら、お手数ですが別紙問合せ先までご連絡くださいませ。

謝辞

修士論文執筆にあたり、多くの方々にご指導・ご協力をいただきました。皆様に厚くお礼いたします。

間野義之先生には二年間本当にお世話になりました。ゼミや勉強の指導はもちろんのこと、これからの人生を生きていくうえでの大切なことを学ばせていただく事ができたと感じています。

副査を引き受けていただいた、木村和彦先生、作野誠一先生、ご助言、ご指導を頂き、ありがとうございました。

本研究の調査の実施にあたっては、笹川スポーツ財団の皆様にとってもお世話になりました。特に、藤原直幸さんにはお忙しい中で何度もアドバイスを頂きました。

早稲田大学スポーツ科学部 4 年の渡辺桃子さんには、調査の実査から入力まで作業を分担させていただき、ありがとうございました。いろいろとご迷惑をおかけしました。

なにかの縁で東伏見の研究室で顔を合わせた皆さん、良く話し、良く飲み、良く遊んでくれてありがとうございました。その中でも特に間野研究室で同期の岡野君、大宮君、吉岡君、長浜さん、真鍋さんの存在は、友達でありつつも、負けていられない気持ちにさせてくれました。修士論文の追い込みの頃に酒井さんの存在はなぜかとても心強かったです。庄子さん、いつもプレッシャーをかけていただいてありがとうございました。富永さんを見ていると、いつも向上心を忘れない大人になろうと思います。質問をする時はいつも本当に親身になって教えてくれる先輩方、ありがとうございました。一年間でしたが、後輩の皆さんと過ごした時間も何物にも代えられない時間でした。

最後に、生まれてから今まで自由に過ごさせてくれた両親に感謝の気持ちを捧げます。

2009 年 1 月 15 日の朝に 内田佑介